

誰のための死刑執行か

遺族が語る死刑執行

- 12月27日の執行に抗議する

政府・法務省は12月27日、死刑執行ゼロの年を作らないために、また国会での批判を避けるために、あえて国会が閉会するのをまって、仕事納めの前日という異例な時期を選び、東京拘置所と名古屋拘置所において、2名の死刑確定者に対し死刑を執行しました。

東京拘置所で執行された確定者にとっては66歳という高齢者に対する執行であり、名古屋拘置所において執行された確定者にとっては、その被害者の遺族が法務大臣に直接面会し、その助命を求めていたものであり、再審請求並びに恩赦のお願いをする矢先でした。

死刑廃止は、人命を尊重し、圧政と暴力と戦争を排除して共存と共生を実現するための当然の前提です。それ故、日本国は国際機関から死刑の廃止と死刑確定者に対する人道的取り扱いを求められ、とりわけ98年11月には国連人権規約委員会から死刑廃止を目指した措置をとるよう再度の勧告を受け、01年2月にはEU(欧州連合)から前年の死刑執行に対する抗議を受け、6月にはCOE(欧州評議会)から03年1月までに死刑廃止に向けた有効な施策を講じるよう求められるなど、死刑廃止は今や重大な国際問題となっています。

フォーラム90では、今回の死刑執行に抗議する集会を1月28日(月)に行います。もう二度と死刑執行抗議集会を行わないですむよう一人でも多くの方に集まっていただき、知恵と力を出し合いたいと思います。

日時：1月28日(月)午後7時から

場所：砂防会館(地下鉄永田町下車)

発言：亀井静香さん、保坂展人さん(死刑廃止議員連盟)

原田正治さん(被害者遺族)

大島令子さん(名古屋拘置所との関係)

田鎖麻衣子さん(欧州評議会との関係)

朴乗植さん(韓国の死刑廃止)